

令和 7 年度病害虫発生予報第 8 号

令和 7 年 10 月 31 日
山梨県病害虫防除所

今月の天気予報

10月30日気象庁発表、1か月予報による関東甲信地方の向こう1か月（予報期間11月1日～11月30日）の天気は次のとおりです。

向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。

I 特に注意が必要な病害虫 【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
抑制トマト	黄化葉巻病	—	やや多い	○10月下旬現在、巡回ほ場での発生はやや多い。 ○10月下旬現在、黄色粘着トラップほ場（中央市）におけるコナジラミ類の誘殺数はハウス内外でやや多い。 □発病株は見つけ次第抜き取り、ビニール袋に入れてコナジラミ類を死滅させ、枯らしてから施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処理する。
	コナジラミ類	—	やや多い	○10月下旬現在、巡回ほ場での発生はやや多い。 ○10月下旬現在、黄色粘着トラップほ場（中央市）における誘殺量はハウス内外でやや多い。 ○向こう1か月の気温は高い見込みである。 □侵入を防ぐため、施設開口部（天窓、側窓、換気扇口等）はすべて0.4mm目以下の防虫ネットを展張する。出入り口は二重カーテンにするなどして侵入を防止するとともに、ネットの隙間や破れ等がないか注意して確認し、不備があった場合は直ちに補修する。 □黄色粘着板を設置して発生状況を確認し、発生初期の防除を徹底する。 □薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避けローテーション散布を行う。 □施設内外の雑草は増殖源となるため、除草を徹底する。また、芽かきした茎葉は適切に処理する。 □ウイルス病の発病株は見つけ次第抜き取り、ビニール袋に入れて虫を死滅させ、枯らしてから施設外に持ち出し、適切に処分する。

Ⅱ 各作物の病害虫発生予報

【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
抑制トマト	疫 病	—	平年並	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は高く、降水量は多い見込みである。 □施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、換気等による施設内の湿度低下に努める。 □早期発見に努め、発病した茎葉・果実は除去して施設外に持ち出し、処分する。
	灰色かび病	—	平年並	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は高く、降水量は多い見込みである。 □施設内が低温、多湿にならないよう、適度な換気を行い、過度な灌水は控える。 □早期発見に努め、発病した葉・花卉・果実は除去して施設外に持ち出し、処分する。 □前年多発した施設では発生に注意し予防散布に努める。
	葉かび病	—	平年並	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は高く、降水量は多い見込みである。 □施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、換気等による施設内の湿度低下に努める。 □多発生すると防除が困難なため、早期発見に努め、初期防除を徹底する。 □発病した葉は伝染源となるため、除去して施設外に持ち出し、処分する。 □抵抗性品種でも発病する菌が存在するため、注意して発病の有無を確認する。 □すすかび病と似ており、判断が難しい場合には、防除薬剤は両方に登録のある薬剤を使用する。 □県内で効果の低下がみられる薬剤もあるため、防除薬剤は総合農業技術センター令和4年度成果情報「トマト葉かび病の抵抗性品種に感染する系統の発生および有効薬剤」(https://www.pref.yamanashi.jp/documents/108010/r4_10_hakabi.pdf)を参考に防除する。 ※農薬の登録状況については、最新のものを確認すること
	すすかび病	—	並 (例年比)	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は高く、降水量は多い見込みである。 □施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、換気等による施設内の湿度低下に努める。 □多発生すると防除が困難なため、早期発見に努め、初期防除を徹底する。 □発病した葉は伝染源となるため、除去して施設外に持ち出し、処分する。 □葉かび病と似ており、判断が難しい場合には、防除薬剤は両方に登録のある薬剤を使用する。

【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
抑制 キュウリ	べと病	—	平年並	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は高く、降水量は多い見込みである。 □施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、適湿となるよう換気を行う。 □多発すると防除が難しくなるため、発生初期の防除を徹底し、発病した葉は除去して施設外に持ち出し処分する。
	うどんこ病	—	平年並	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は高く、降水量は多い見込みである。 □早期発見に努め、発病した茎葉・果実は除去して施設外に出し、処分する。 □多発すると防除が難しくなるため、予防防除に努める。 □薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
	褐斑病	—	平年並	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は高く、降水量は多い見込みである。 □施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、適湿となるよう換気を行う。
	アブラムシ類	—	平年並	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は高い見込みである。 □発生が多くなると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
	ハダニ類	—	平年並	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は高い見込みである。 □発生が多くなると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。 □薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避けローテーション散布を行う。 □葉の裏に多く寄生するため、薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。
イチゴ	炭疽病	—	平年並	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は高く、降水量は多い見込みである。 □発病株は感染源になり、降雨や灌水により急速に蔓延するため、発病が確認された株は直ちに抜き取って適切に処分する。 □ベンレート水和剤(FRAC:1)、アミスター20フロアブル(FRAC:11)に対し耐性菌が確認されているため、他の系統の薬剤を中心とした防除を行う。 ※参照 総合農業技術センター令和6年度成果情報「イチゴ育苗における底面給水の炭疽病被害軽減効果と薬剤耐性菌の発生状況」(r6_13_ichigotanso.pdf)
	うどんこ病	—	平年並	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は高く、降水量は多い見込みである。 □早期発見に努め、発病した茎葉は除去して施設外に出し、処分する。 □多発すると防除が難しくなるため、予防防除に努める。

【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
イチゴ	ハダニ類	—	平年並	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は高い見込みである。 □発生が多くなると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。 □薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避けローテーション散布を行う。

【野菜全般】

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
灰色かび病	—	平年並	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は高く、降水量は多い見込みである。 □施設内が低温、多湿にならないよう、適度な換気を行い、過度な灌水は控える。 □早期発見に努め、発病した葉・花卉・果実は除去して施設外に持ち出し、処分する。 □前年多発した施設では発生に注意し予防散布に努める。
オオタバコガ	—	平年並	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○10月下旬現在、定点調査ほ場（甲府市、笛吹市、鳴沢村）におけるフェロモントラップへの誘殺数は平年並からやや多い。 ○向こう1か月の気温は高く、降水量は多い見込みである。 □老齢幼虫には薬剤の効果が低いため、発生初期の防除を徹底する。 □幼虫は果実内部に食入し、農薬がかかりにくくなるため、作業の際にはほ場をよく観察し、食害痕や虫糞を目安に幼虫の早期発見に努める。
ハスモンヨトウ	—	やや多い	○10月下旬現在、巡回ほ場における発生量はやや多い。 ○10月下旬現在、夏秋ナス（甲府市、笛吹市）の定点調査ほ場におけるフェロモントラップへの誘殺数はやや多い。 ○向こう1か月の気温は高く、降水量は多い見込みである。 □老齢幼虫には薬剤の効果が低いので、若齢幼虫のうちに早期防除を徹底する。 □卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら速やかに捕殺する。

オオタバコガ、ハスモンヨトウのトラップ調査結果

<https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/00035185449.html>

Ⅲ 各病害虫対策

【ブドウ】

黒とう病

- (1) 黒とう病の病原菌は結果母枝や巻きひげで越冬し、翌年の伝染源となる。翌年の発生を少なくするため、発病部位は切除し、ほ場の外に持ち出して適切に処分する。
- (2) つり棚の支線、簡易雨よけの資材やハウスのパイプに絡みついた枝や巻きひげを、丁寧に除去する。冬の剪定時には巻きひげ等が木質化して取りにくくなるため、柔らかいうちに除去する。
- (3) シャインマスカットなど、本病に弱い欧州系の品種は特に重点的に観察し、罹病部の除去を徹底する。

ブドウトラカミキリ

1 1月上旬までに晴天が続く日を選んで、トラサイドA乳剤200倍（加用浸透性展着剤）を散布する。ただし、先月にモスピラン顆粒水溶剤2,000倍で防除を行った園ではこの時期の散布は省いて良い。なお、隣接園に収穫前の果樹がある場合は飛散しないよう注意する。

【モモ・スモモ・オウトウ】

コスカシバ

1 1月中旬までに防除薬剤トラサイドA乳剤200倍（加用浸透性展着剤）を樹幹及び主枝に散布する。ただし、隣接園に収穫前の果樹がある場合は飛散しないよう注意する。

【果樹全般】

チュウゴクアミガサハゴロモ

枝に産卵痕を見つけたら、発生密度低減のため切除し、地中深く埋めるか焼却するなど適切に処分する。 ※参照 令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号（チュウゴクアミガサハゴロモ）

<https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/70568874362.html>

【夏秋作物収穫後対策】

ナス青枯病・半身萎凋病、トマト半身萎凋病・青枯病、キュウリつる割病、キャベツ黒腐病・ピシウム腐敗病・軟腐病・根こぶ病、ネコブセンチュウ等

- (1) ナス、トマト、キュウリ、キャベツ等夏秋作物収穫後の根、茎、葉等は翌年の伝染源になるので早めに抜き取り、ほ場から持ち出し適切に処分する。
- (2) 前年発生の認められたほ場では作付けをしない。
- (3) 輪作を行う。

【サツマイモ基腐病について】

発病すると地際部から茎が枯れ、いもが腐敗する症状を引き起こすことにより、大幅な減収を生じる。本県での発生は確認されていないが、被害の蔓延を防ぐため、栽培期間中は、ほ場観察を通じて本病の早期発見に努め、発病株はほ場外に持ち出して適切に処分する。

本病の防除に関する詳細な技術対策については、農研機構のHPに掲載されている、以下のマニュアルを参照とする。※農薬の登録状況については、最新のものを確認すること

「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策（令和4年度版）」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator04.pdf

【表】

裸黒穂病、なまぐさ黒穂病、斑葉病

健全種子を使用するとともに、種子消毒を徹底する。

(1) 温湯浸漬または冷水温湯浸漬する（県病虫害防除基準参照）。

(2) 薬剤による消毒は以下のいずれかの方法で行う。薬剤によって適用病害が異なるので、使用する前に登録内容を確認する。

- ・ ホーマイ水和剤、トリフミン水和剤のいずれかを種子重量の0.5%粉衣する。または、ベンレートT水和剤20を乾燥種子重量の0.5%粉衣する。
- ・ ホーマイ水和剤の200倍液またはベンレートT水和剤20の200倍液に6～24時間浸漬する。

赤かび病

(1) 発生ほ場からの採種は行わない。

(2) 発病の少ない品種を選ぶ。

(3) 窒素質肥料の多量追肥を避ける。

立枯病

(1) イネ科以外の作物と輪作し、連作を避ける。

(2) 土壌pHが高いと多発するため、硫安など生理的酸性肥料を用い、石灰質資材の施用を控える。

ハリガネムシ（コメツキムシ幼虫）

(1) ハリガネムシの好まない作物（ソバ、ナタネ、豆類など）との輪作か、被害の少ないオオムギの栽培を行う。

(2) 春先に生育の遅れているムギは被害を受けやすいので、発生が予想される地帯では秋の遅播きや春播きを避ける。

IV その他

【農薬の保管管理と適正使用について】

- 1 農薬の適正使用や、計画的な購入のため、農薬保管庫の整理を行いましょう。
- 2 有効期限切れなど使わなくなった農薬は放置せず、処理業者に依頼して適正に処分しましょう。
- 3 農薬を購入・使用する際には、農薬登録番号や使用基準などの登録内容を必ず確認しましょう。
- 4 農薬による事故を防ぐため、保管庫にはカギをかけておきましょう。
- 5 農薬の使用にあたっては、使用方法をよく確認して正しく使いましょう

※参照 https://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/kenkyu/nouyaku_shiyou.html

連 絡 先

山梨県病虫害防除所（山梨県総合農業技術センター調査部）

TEL 0551-28-2941

Eメール byogaichu@pref.yamanashi.lg.jp

インターネット

山梨県病虫害防除所ホームページ

予報対象作物を中心に「トラップ調査結果」「病虫害写真」等を掲載しています。

アドレス <https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/>